

ローマ法王、38年ぶり11月来日

バチカンのローマ法王フランシスコの来日が確定的となった。外務省筋が28日、語った。

「バチカンの法王庁から『法王が11月下旬に訪日する』との意思表示があった。1982年2月のヨハネパウロ2世法王の訪日以来、38年ぶりとなる」

38年前、ヨハネパウロ2世は広島、長崎も訪問した。ローマ法王はカトリック信者の多いフィリピン、韓国への訪問は多いが、日本へは長い空白があった。

訪問して、法王の来日を働きかけてきた。

2015年8月の4回目の訪問では、安倍晋三首相の親書をアントニオ・カミレリ外務次官に手交した。

河井氏が語った。

「バチカンは国際政治で重要な役割を果たしている。全世界の教会のネットワークで、情報が集まる。世界政治に関与しており、各国の内政にも影響力を持っている」

安倍首相も法王の来日に積極的で、次の考えをもちしているという。「法王は平和の象徴だ。日本は戦

後70年、国際平和に長く貢献してきた。ぜひ、日本に来ていただきたい」

昨年6月、長く不在だった日本のカトリック枢機卿に長崎県の五島出身の前田万葉大司教が任命された。

河井氏が言った。

「前田氏の枢機卿選任が、今年の法王訪日の追い風になったと思う」

法王が訪日の前に「中国を訪問するのでは」との観測がある。

外務省筋が言った。

「バチカンは中国と国交がない。台湾とはある。中国では、政府が認める『愛国教会』と政府が認めない

『地下教会』がある。地下教会の方が信者が多い。フランシスコ法王はリベラルといわれ、中国との国交に積極的とされる」

問題はないのか。

「中国との間に、司教の任命権の対立がある。中国政府は任命権を手放さない。バチカンは、バチカンが任命したい。中国のカトリックは1000万人といわれ、キリスト教徒は1億人ともいう。法王は、この数に魅力があるようだ」

法王への批判は。

「イタリヤの新聞が『法王の中国接近に異論』と書いた。『アルゼンチン出身で、共産党の怖さの経験がない法王』との指摘もある」

(政治評論家)

中国とバチカンの国交からむ



鈴木棟一の風雲永田町

6034